

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成20年3月21日(2008.3.21)

【公表番号】特表2007-520537(P2007-520537A)

【公表日】平成19年7月26日(2007.7.26)

【年通号数】公開・登録公報2007-028

【出願番号】特願2006-551904(P2006-551904)

【国際特許分類】

C 07 D 239/42	(2006.01)
A 61 K 31/505	(2006.01)
C 07 D 405/12	(2006.01)
A 61 K 31/506	(2006.01)
A 61 K 45/00	(2006.01)
A 61 P 43/00	(2006.01)
A 61 P 29/00	(2006.01)
A 61 P 37/00	(2006.01)
A 61 P 25/04	(2006.01)
A 61 P 19/02	(2006.01)
A 61 P 25/28	(2006.01)
A 61 P 19/10	(2006.01)

【F I】

C 07 D 239/42	C S P
A 61 K 31/505	
C 07 D 405/12	
A 61 K 31/506	
A 61 K 45/00	
A 61 P 43/00	1 1 1
A 61 P 29/00	
A 61 P 37/00	
A 61 P 25/04	
A 61 P 19/02	
A 61 P 29/00	1 0 1
A 61 P 25/28	
A 61 P 19/10	

【手続補正書】

【提出日】平成20年1月31日(2008.1.31)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

2-(3-クロロフェニルアミノ)-4-イソプロピルピリミジン-5-カルボン酸シクロヘキシリル-メチル-アミド；

2-(3-クロロフェニルアミノ)-4-イソプロピルピリミジン-5-カルボン酸(テトラヒドロ-ピラン-4-イルメチル)-アミド；

2-(3-クロロフェニルアミノ)-4-エチルピリミジン-5-カルボン酸シクロヘキ

シル - メチル - アミド；

2 - (3 - クロロフェニルアミノ) - 4 - エチルピリミジン - 5 - カルボン酸(テトラヒドロ - ピラン - 4 - イルメチル) - アミド；または

2 - [(3 - クロロフェニル)アミノ] - 4 - [1 - (ジメチルアミノ)エチル] - N - (テトラヒドロ - 2 H - ピラン - 4 - イルメチル) - 5 - ピリミジンカルボキサミド・塩酸塩
あるいはその医薬上許容される誘導体。

【請求項 2】

請求項1に記載の化合物またはその医薬上許容される誘導体と、医薬上許容される担体または希釈体とを含む、医薬組成物。

【請求項 3】

さらに第二治療薬を含む、請求項2記載の医薬組成物。

【請求項 4】

免疫障害、炎症疾患、疼痛、関節リウマチ、多発性硬化症、骨関節炎または骨粗鬆症の治療に用いるための請求項1に記載の化合物またはその医薬上許容される誘導体。

【請求項 5】

免疫障害、炎症疾患、疼痛、関節リウマチ、多発性硬化症、骨関節炎または骨粗鬆症の治療用の医薬の製造における請求項1に記載の化合物またはその医薬上許容される誘導体の使用。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

式(I)の化合物は、また、精神病、例えば、統合失調症、鬱(本明細書において、双極性鬱病、単極性鬱病、精神病的特徴を伴う、または伴わない単一性または再発性大鬱病性エピソード、緊張病性特徴、鬱病性特徴、不定型な特徴または分娩後発症、季節性情動障害、早期または後期発症を伴い、不定型な特徴を伴う、または伴わない気分変調障害、神経症鬱病および社会恐怖症、痴呆症、例えば、アルツハイマー型の痴呆症に伴う鬱病、統合失調性感情障害または鬱型、および限定するものではないが、心筋梗塞、糖尿病、流産または墮胎などを包含する一般的な病状に由来する抑鬱性障害を包含するものとして使用される)、不安障害(全身性化した不安障害および社会的不安障害を包含する)、疼痛障害、広場恐怖症、社会恐怖症、強迫障害および外傷後ストレス障害、痴呆、健忘症および年齢に関連する記憶障害を包含する記憶障害、食欲不振および神経性大食症を包含する摂食行動障害、性的機能不全、睡眠障害(概日リズムの妨害、睡眠異常、睡眠時無呼吸およびナルコレプシーを包含する)、コカイン、エタノール、ニコチン、ベンゾジアゼピン、アルコール、カフェイン、フェンシクリジン(フェンシクリジン様化合物)、アヘン剤(例えば、ヘロイン、モルヒネ)、アンフェタミンまたはアンフェタミン関連薬物(例えば、デキストロアンフェタミン、メチルアンフェタミン)またはその組み合わせなどの薬物濫用からの離脱の治療において有用でありうる。